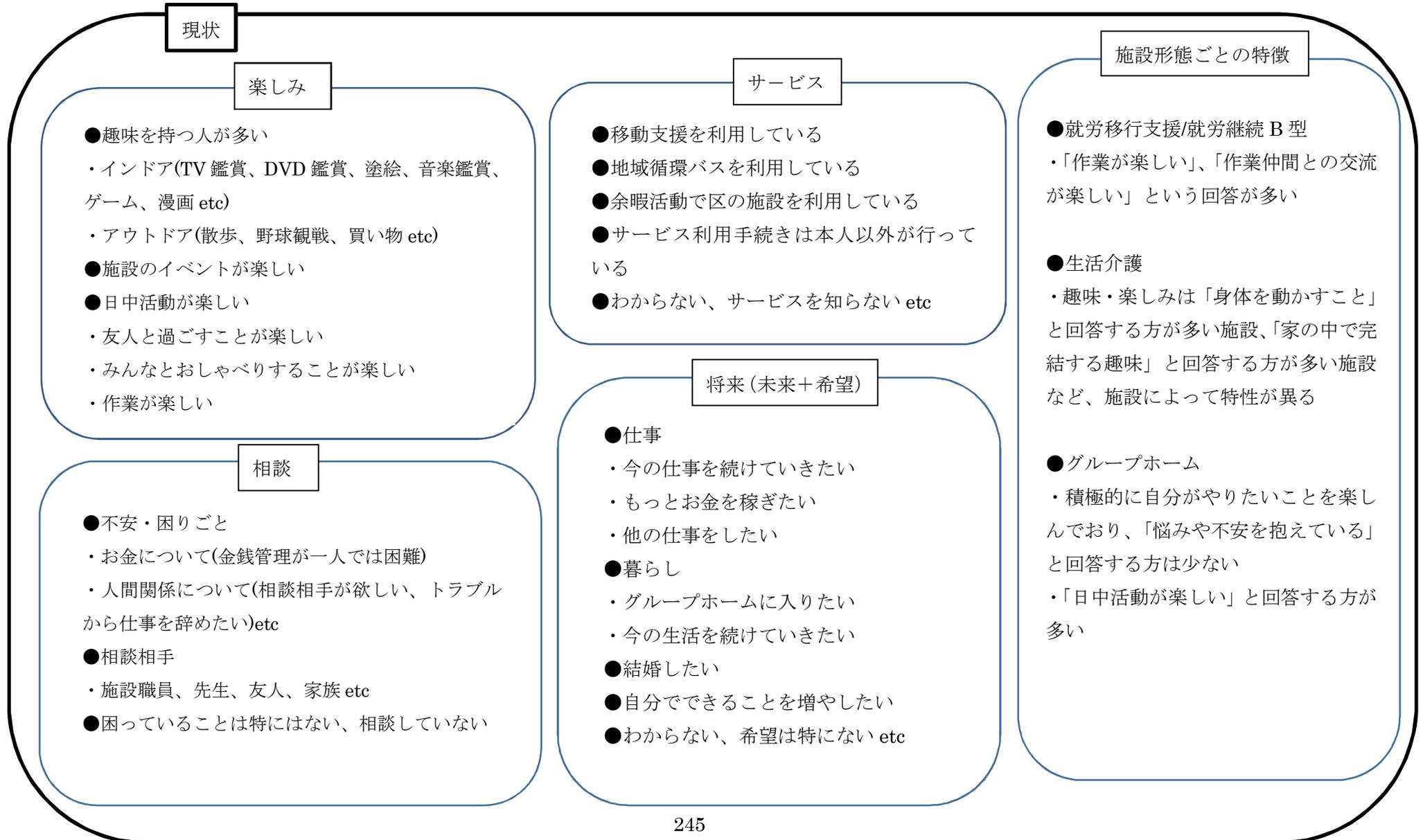


第5章

質的調査（インタビュー調査）

1. 全体総括図



※この量的調査結果は回答者別にみたデータに基づいており、養護者の観点として認識されている家族等が本人の気持ちを考えて回答した結果です。なお、()内の本人回答数値には仕事での回答を含みます。

現状から導き出せること（質的調査と量的調査の比較）

本人の視点（質的調査結果より）

過去+現状

- 楽しみ
- ・仕事が楽しい
- ・作業が楽しい
- ・趣味は楽しい
- 働いていない
- 家族以外との人間関係が希薄

未来+希望

- 仕事
- ・働きたい
- ・もっとお金を稼ぎたい
- 結婚したい
- わからない
- 今の生活を続けたい

対比

養護者の視点（量的調査結果より）

- 今後希望する生活【上位2つ】 (参考：本人回答)
 - ・家族と一緒に生活する 41.7% (地域で独立して生活する 33.6%)
 - ・わからない 14.0% (家族と一緒に生活する 31.2%)
- 地域で安心して暮らすために必要な施策【上位2つ】
 - ・医療機関サービスの充実 36.7% (医療機関サービスの充実 38.9%)
 - ・障害に対する理解の促進 34.5% (障害に対する理解の促進 34.5%)
- 一般就労するために必要なこと【上位2つ】
 - ・障害に応じた柔軟な勤務体系 21.6% (障害に応じた柔軟な勤務体系 27.3%)
 - ・障害特性に合った多様な仕事 21.2% (自分に合った仕事を見つける支援 25.9%)

「働く」ことへの思い（質的調査結果より）

- 趣味を生かすという将来の夢を持っている
- 社会的・経済的に自立したい
- できることをもっと増やしていきたい
- 本屋さんになりたい
- わからない

家族の意向（量的調査結果自由意見より要約抜粋）

- 障害への理解について
 - ・知的障害者は、外見等からわかりにくく、物ごとの理解が困難、意思疎通が苦手な人が多いです。親・家族・介護する人・社会が、障害者本人の心や行動をていねいに理解し、幸せな暮らしが出来るよう、皆で取り組めればと思います。
- 将来について
 - ・知的障害者への意思疎通支援の内容について検討してほしい。内容が理解できなかったり、将来への見通しが持てない点への支援がほしい。

2. 全体総括図解説

調査の結果を障害者本人のニーズとしての【現状】と【現状から導き出せること】の二点から考察する。聴き取り調査による質的データを分析の基盤としているため、具体的な数値を提示することができないが、通所施設利用者の全体的な傾向としてとらえたい。インタビュー実施時の雰囲気が考察の解釈につながることも聴き取り調査の特性として合わせて明記しておく。

(1) 現状

① 楽しみ

調査全体を通して趣味を《楽しみ》とする人が多いと言えよう。「塗り絵をする」、「テレビを見る」、「DVD鑑賞をする」、「漫画を読む」、「音楽を聴く」といった、インドアなもの、「散歩をする」、「野球観戦をする」、「買い物をする」といったアウトドアなものに2つに大別できた。

また、施設が企画する郊外宿泊、納涼祭や運動会といった「イベントが楽しい」という回答を多く得た。日中活動が楽しいという回答もあり、具体的には「友人と過ごすことが楽しい」、「みんなとおしゃべりすること楽しい」、「日中作業が楽しい」というものだった。

② 相談

《相談》についてのインタビュー結果は、『不安・困りごと』についてと『相談相手』についての2つに大別できた。『不安・困りごと』について、その内容は「お金について」、「人間関係について」であった。『相談相手』は「施設職員」、「先生」、「友人」、「家族（とりわけ母親が多い）」などである。困っていることは特になく「相談をしていない」というラベルであり、このラベルは生活介護の利用者に多かった。すなわち、自立度が高まると相談も増える傾向がある。

③ サービス

《サービス》については「移動支援を利用している」、「地域循環バスを利用している」、「余暇活動で区の施設を利用している」という具体的な回答のほかに、「サービス利用手続きは自分以外が行っているため、わからない」、「サービスを利用していない」という結果が得られた。サービスの認識度が利用者の施設形態によって異なる現状が明らかになった。

④ 将来(未来+希望)

《将来》のインタビュー結果は『仕事』についてと『暮らし』についての2つに大別できた。『仕事』は「今の仕事を続けていきたい」、「もっとお金を稼ぎたい」、「他の仕事をしたい」という異なる回答が得られた。また『暮らし』については「今の生活を続けていきたい」、「グループホームに入りたい」、そして「結婚をしたい」という回答も少数ながら得られ、未来や希望の個別性がうかがわれる。

- ⑤ 就労移行支援／就労継続 B 型は「作業が楽しい」「作業仲間との交流が楽しい」という回答が多かった。また、「企業就労や働くことへの思い」の項目に対して「作業所で働き続けたいので、企業への就労は希望していない」という回答があったことが特徴といえる。

生活介護では趣味・楽しみは「身体を動かすこと」と回答する方が多い施設、「家の中で完結する趣味」と回答する方が多い施設など、施設によって異なる傾向が浮かび上がった。

また、グループホーム利用者は、積極的に自分がやりたいことを楽しんでいる方が多く、「悩みや不安を抱えている」と回答する方は少なかった。

インタビュー対象者の多くは家族と同居しており、サービスの利用手続きは利用者以外が行っているため、利用者自身はサービスを受けているという自覚がない、知らないという背景が考えられる。

(2) 現状から導き出せること

① 本人の観点

『過去+現状』では、上記の「楽しみ」、「相談」、「サービス」から「趣味が楽しい」、「作業が楽しい」、「仕事が楽しい」という楽しみがある一方、一人もしくは家族との間でコミュニティが完結してしまいがちであり、地域との自発的なつながりが希薄であるという課題が浮かび上がった。

『未来+希望』では、前述した「将来（未来+希望）」から、「今の生活を続けていきたい」、「グループホームに入りたい」という回答が得られた。「結婚をしたい」、「自分でできることを増やしたい」、「料理教室に通いたい」、「旅行に行きたい」、「コンサートに行きたい」という具体的な希望の回答も得られるが、「特にない」、「わからない」、「現状に満足しているので思いつかない」という回答も得られ、具体的な将来像が描けていない状況も全体的に多く見られる。

② 企業就労や働くことへの思い

就労継続支援 B 型の利用者からは、「趣味を生かすという将来の夢を持っている」という回答から、「経済的・社会的に自立したい」、「できることをもっと増やしていきたい」など、就労意欲が高く、前向きな希望や回答が多く上がった。一方で、「働きたくない」や「仕事を辞めたい」といった回答が見受けられる施設と、そういった回答が一切見受けられない施設にはっきりと分かれた。すなわち、「企業就労や働くことへの思い」でも、繰り返しになるが、施設形態による回答の特徴があるといえよう。